



## 「間質性肺疾患の発症に関連する因子の解析研究」へのご協力依頼

薬剤性間質性肺疾患患者の主治医の先生へ

拝啓、時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

薬剤性間質性肺疾患は、抗がん剤をはじめとする広範な薬剤が原因と成り得る重篤副作用であり、医薬品の適正使用上、極めて重大な問題となっております。薬剤性間質性肺疾患の発症機序は、いまだ不明であります。日本人ではいくつかの薬剤で発症率が他人種と比較して多いとされており、間質性肺疾患の発症にも、何らかの遺伝子の個人差（遺伝子多型など）が関係する可能性が高いと私共は考えています。他の重篤副作用に関連する遺伝子の多型でも、民族特異性が報告されております。

そこで、私共は、日本人患者を対象に、薬剤性間質性肺疾患の発症と関連する遺伝子多型マーカーを探索する研究を開始しました。薬剤性間質性肺疾患発症のマーカーとなる遺伝子多型が明らかになれば、予め発症しやすい高リスクの患者を識別することにより、間質性肺疾患の発症を未然に防ぐことが可能となります。

本研究では、薬剤性間質性肺疾患（CTにより診断された症例）を発症した患者様（もし可能でしたら、対照として、同薬を6ヶ月以上服用し未発症の患者様からも）から血液をご提供いただき、血液より抽出したDNAを解析します。本研究目標を達成するためには、多くの症例を集積する必要がありますが、薬剤性間質性肺疾患の発症率が非常に低いことを考慮しますと、一人でも多くの患者様及びご担当医の先生に、ご協力いただくことが切に望まれます。

本研究へご協力いただくための方法を別添にお示ししました。本研究へご協力頂ける場合はもとより、少しでもご関心がおありの場合には、弊所の連絡先へ直接、もしくは製薬企業の医薬情報担当者を通じてご連絡下さい。研究について詳細な説明を申し上げるために、後日、私どもの方から先生へご連絡をさせていただきます。

薬剤性間質性肺疾患予防の重要性を鑑みて、何卒ご高配の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

国立医薬品食品衛生研究所  
医薬安全科学部長 齊藤 公亮  
医薬安全科学部室長 田中 庸一

※ 本研究では令和8年4月より謝金のご用意がありませんが、それをご承知の上でご検討いただければ幸いです。